

令和7年度

あさひかわっ子☆夢応援プロジェクト

チャレンジの軌跡

< 記録集 >



旭川市子育て支援部子育て支援課

目 次

I 事業概要	1
II 令和7年度 研修報告	
大賞 旭川市立愛宕中学校1年 松倉 佑磨	2～9
準大賞 旭川市立東光中学校3年 森 陽汰	10～19
III 令和7年度 応募作集	20～27

令和7年度あさひかわっ子☆夢応援プロジェクト 事業概要

◆ 事業目的

子どもが夢や希望を持ち、自立して生きる力を身に付けることができるよう、市民、団体、企業、行政などが連携し、多様な経験や学びの機会を提供することで、子どもの主体性を育み、旭川市子ども条例の「子どもの夢や希望を応援するまちづくり」の実現に寄与することを目的とする。

◆ 事業内容

子どもたちから、将来に対する夢を叶えるために「今チャレンジしてみたいこと」を募集し、発表・提案内容を審査の上、選考された企画に対し、実現に必要な支援を行う。

○選定件数 個人の部 大賞 1件、準大賞 1件

団体の部 大賞 1件

○助成上限額 個人の部 大賞 40万円、準大賞 20万円（※講師謝礼、旅費等）

団体の部 大賞 20万円

○選考方法 一次選考 書類審査により個人の部4件、団体の部3件選定

二次選考 「夢とチャレンジについて熱く語る発表会」で、個人の部大賞1件、準大賞1件、団体の部大賞1件を決定

○チャレンジ研修の実施

受賞者から希望を聞き、研修先と研修内容について調整し、研修を実施する。研修実施に係る経費を上限額の範囲内で助成する。

○記録集の発行

実施した研修の内容と応募作をまとめた「記録集」を作成し、関係機関等へ配付するとともに、旭川市ホームページで公開する。

◆ 実施状況

5月～6月10日（火）	応募受付（応募8件）
6月19日（水）	一次選考（4件選定）
8月2日（土）	二次選考会（大賞1名、準大賞1名）
8月以降	研修内容協議・研修実施
令和8年3月下旬	記録集作成・配付

※ 令和7年度は、団体の部の応募はありませんでした。

☆ 将来の夢 ☆ 『スポーツ通訳士になりたい!』

スポーツ通訳士に
なりたい!
松倉 佑磨



○川崎ブレイブサンダース

【日時】令和7年11月30日（日）午前9時00分から午後4時00分まで

【場所】東芝小向体育館（川崎市幸区小向東芝町）

【講師】通訳 渥美 雄大 氏
広報 稲田 優子 氏

【研修内容】

- ・練習見学
- ・渥美通訳の仕事見学・帯同
- ・イベント見学
- ・対談



【研修を通して学んだこと・感想】

僕はスポーツ通訳士に興味を持ち、その中でも特に発信力があり、興味を引かれた渥美通訳の現場での活動に密着してきました。

まず、川崎ブレイブサンダースの練習を見学しました。チームには外国籍選手がいて、英



語を話せる日本人選手もいましたが、チームのミーティングでは一言一句すべて英語に通訳されていました。

また、川崎ブレイブサンダーズの勝久ジェフリーヘッドコーチはハーフの方で、日本語も英語も話すことができますが、練習中はほとんど英語で話します。そのため、練習中も渥美通訳は、すべての言葉を逃さずに通訳していました。

僕が特に驚いたのは、ヘッドコーチが時々日本語を話すことがあり、その際には、とっさに顔色一つ変えずに英語の通訳に切り替えていたことです。本当にすごいと思いました。



また、渥美通訳はヘッドコーチの気持ちも理解した上で言葉を伝えていて、通訳には英語力だけでなく、人の気持ちを敏感にくみ取る力も必要なのだと感じました。僕は、今まで知らなかった通訳のすごさを実感することができました。それと同時に憧れの気持ちも生まれ、夢に向かって頑張ろうと思いました。

練習の合間に渥美通訳にインタビューを行うことができました。

Q. ヘッドコーチが英語から日本語に変えるときや、日本語から英語に変えるとき、頭が混乱しませんか？

A. 最初は難しいですが、混乱しないように、いつでも準備をしています。

Q. 通訳をするときのコツはありますか？

A. 自分は、英語を日本語に直して理解し、言葉にするという動作を一度で行うことができます。しかし、最初のうちは、この工程をいくつかの段階に分けて通訳する練習をするといいです。



Q. スポーツ通訳になったきっかけは何ですか？

A. インターナショナルスクールに通っていたため、英語は自然に身につきましたが、最初

から通訳になろうと思っていたわけではありませんでした。大学時代に知り合いからバスケットボールチームの通訳を勧められ、実際にやってみたことがきっかけです。その後、Bリーグの通訳となり、現在に至っています。通訳をしていなければ、世界を飛び回る仕事をしていたかもしれないです。

Q. スポーツ通訳をしていて大変なことは何ですか？

A. 通訳だけでなく、選手の私生活のサポートもしなければならぬことが大変です。市役所での手続きや、選手の子どもの病院に連れて行くなど、身近な手伝いをすることも多く、大変ですが、やりがいを感じることもあります。



練習が終わった後、ファンミーティングに参加させていただきました。その際、外国籍選手も参加していたため、渥美通訳が司会進行と通訳をしていました。

練習中のピリピリした雰囲気とは違い、少しジョークを交えながら、ただ言葉を訳すだけでなく、場の雰囲気を盛り上げるような通訳をしていました。渥美通訳はとても気さくで話しやすく、楽しい方でした。通訳はただ訳せばよいのではなく、人と人とのコミュニケーションを取ることも大切なのだと感じました。



〇スポーツマネジメント通訳協会

【日時】令和7年12月1日（月）午前9時00分から午後0時30分まで

【場所】スポーツマネジメント通訳協会（東京都港区芝1-5-9）

【講師】理事 篠田 和徳 氏
スポーツ通訳者 佐々木真理絵 氏

【研修内容】

- ・講義
- ・現役通訳者とのインタビュー

【研修を通して学んだこと・感想】

今回の研修では、通訳士の資格を初めて作った協会の理事である篠田さんの講義を受けました。

講義では、スポーツ通訳士の日常の仕事や通訳士としての本質、そしてスポーツ通訳業界



の現状について教えていただきました。

特に印象に残ったのは、スポーツ通訳士に求められる力は、言葉を訳す力だけではないということです。異文化への理解、マネジメント力、コミュニケーション力、危機対応力、そして人間力がとても重要だということを知りました。

また、スポーツ通訳業界では通訳者が慢性的に不足しているという現状も知りました。さらに、実際に働いているスポーツ通訳士の1年のスケジュールを教えてもらい、ほとんど休みがないことにとっても驚きました。しかし、その分やりがい大きい仕事だと感じました。



私は、スポーツ通訳士は「便利屋」のような仕事だと思っていましたが、この講義を通して、選手と対等な立場で信頼関係を築くことが大切な仕事だということを知りました。

また、言葉の通訳だけでなく、選手のメンタル面を支えるサポートも重要だということが分かりました。

今回の研修を通して、スポーツ通訳士の新たな一面を知ることができ、とても貴重な経験になりました。

次に、佐々木真理絵さんにインタビューをしました。佐々木さんは、最初にBリーグのチームに通訳兼マネージャーとして入団し、その後はバレーボールの国際大会で通訳を務めたり、バスケットボール女子日本代表のチームマネージャーを務められたりした経験をお持ちの方です。

佐々木さんへのインタビューを通して、スポーツ通訳士の現状をより深く知ることができました。特に驚いたのは、長年通訳を続けている今でも、通訳の途中で知らない言葉に出会い、挫折を感じることもあるというお話です。

しかし、そのたびに分からなかった言葉をメモし、毎日勉強することで成長していくことがやりがいだとおっしゃっていました。このことから、通訳士になってからも日々努力を続ける姿勢がとても大切だということが分かりました。

また、たとえ将来の夢が変わったとしても、日々学び続けることや、人と積極的にコミュニケーションを取ることは、どんな仕事にも役立つ大切な力だということを知ることができました。



○レバンガ北海道

【日時】 令和7年12月3日（水）午後1時00分から午後4時00分まで

【場所】 KAMINISHI VILLAGE (札幌市厚別区上野幌1条2丁目6-1)

【講師】 レバンガ北海道

ゼネラルマネージャー 桜井 良太 氏

スキルコーチ兼通訳 牧 全 氏

選手 富永 啓生 氏

アカデミックディビジョンマネージャー 関谷 圭子 氏

レバンガ北海道選手、スタッフの皆様



【研修内容】

- ・ 練習見学
- ・ 牧通訳の仕事見学
- ・ 対談

【研修を通して学んだこと・感想】

まず、レバンガ北海道の練習を見学させていただきました。練習場のテレビモニターには、その日の練習メニューが映し出されていて、その内容はすべて英語で書かれていました。日本のチームなのに、日常的に英語が使われていることにびっくりしました。



練習中は、清永シニアディレクターが、ロイブルヘッドコーチからの指示について全体通訳を担当していました。一方で、牧通訳は5対5の練習などの場面で、特に外国籍選手に対して通訳をしていました。場面ごとに役割が分かれていて、通訳ができるスタッフが複数いると、通訳にもいろいろな形があることを知りました。



また、チームは通訳士やコーチ、マネージャーだけで成り立っているのではなく、トレー

ナーやスタッフなど、本当に多くの人に関わって支え合っているということを、今まで以上に強く感じることができました。選手たちも僕に優しく接していただき、最後のハイタッチにも入れてもらい写真も撮っていただいととても嬉しかったです。



練習後には、牧通訳にインタビューをする機会をいただきました。

Q. 今からでもできることは何ですか。

A. 勉強。

Q. 通訳に向いている人はどんな人ですか。

A. 記憶力がいい人かな。あとは英語が好きな人。

英語+何か好きなことを仕事にできたらいいよね。

Q. 海外には早めに行ったほうがいいですか。

A. うん。絶対。



さらに、富永選手にもインタビューすることができました。

Q. アメリカで困ったことは何ですか。

A. 言葉の壁かな。でも、失敗してもいいからオープンな気持ちで話しかけていたら、だんだん話せるようになった。

Q. 海外には早めに行ったほうがいいですか。

A. うん。絶対。

Q. アメリカと日本のバスケットボールの違いは何ですか。

A. アメリカは個人技。日本は戦略。



NBA や様々な国のチームを経験してきたオカフォー選手にもインタビューさせていただきました。

今回の見学とインタビューを通して、英語を使うことを恐れず、早い段階から海外に挑戦することの大切さを学びました。

元々高校から海外に行きたいと思っていた気持ちが、より一層強くなりました。

また、スポーツの世界では、選手だけでなく、多くの人がそれぞれの役割を持って支えていることを知り、とても貴重な経験になりました。

このような機会を与えていただき本当にありがとうございました。



☆ 研修を通して学んだこと（まとめ） ☆

スポーツ通訳士の仕事を詳しく知れました。実際の仕事場面や色々お聞きする中で、思っていたより大変そうだなあと感じました。通訳する相手が不利になることがないように配慮する通訳が必要だったり、選手の気持ちを汲み取ったりする必要があると学びました。チームによっては、外国人選手の家族の生活全般の手続きなどプライベートもサポートする場合もあることを知りました。

Q 夢応援プロジェクトに参加して、夢への熱意はどうになりましたか？

熱くなりました！

実際の仕事を拝見して、大変な一面もたくさん垣間見られましたが、やっぱり大好きなバスケットに携われる仕事は僕にとって、とても魅力的に見えました。また、大変さ以上に、人を助けるというやりがいも感じて、さらに強くこの夢を叶えたいと思えました。

Q 夢をかなえるために、努力していきたいことはありますか？

特にスポーツの現場での通訳はスピードやバスケット用語、感情や熱量を正確に伝える技術が求められると感じました。研修後から、英語のYouTubeを観るようになりました。あとは、NBAのインタビューや試合の実況をYouTubeなどで観るのももっとやっていこうと思いました。海外での経験がある牧さんや富永選手のインタビューのおかげで、海外の高校進学に迷いがなくなったので、まずはTOEFLを受けて、自分の実力を知り、スコア60を目標に英語の勉強を始めます！



Q 10年後の自分はどうなっていますか？自分に向けてメッセージ！

スポーツ通訳士になれてる？
めげないで頑張れ！
大変そうだけど、頑張ればできるぞ！

Q 研修に協力してくれた皆さんへ今後の決意表明！

貴重な機会とご協力をしてくださり、ありがとうございました。研修させていただいたことで、雲の上の職業だと思っていた通訳士の仕事が、今はリアルに感じられる夢になった気がします。通訳士になることで、皆さんに恩返しできたらいいなと思っています。

Q 次年度、夢プロを応募するみんなへひとこと！

夢は口に出して行動すれば、一步ずつ夢に近づけるかも！！
夢プロは、その一步になると思います。

【保護者からのひとこと】

皆さんのおかげでとてもいい経験をさせてもらったね。いつでも周りへの感謝を忘れず、この経験をもとに、本当に自分が大好きなことに突っ走ってね。今回の研修が、自分の5年後、10年後を考えて動き出すきっかけになることを願っています。自分を信じて、なりたい自分に向かって挑戦を繰り返すのみ！いつでもどんな選択も応援してるよ。



【研修担当職員からのひとこと】

一般的な語学力以外にも、日々アップデートするスポーツの専門的なルールや用語、医療や国の文化や規則など、色々な方向にアンテナを向ける必要がある大変な職業だと思います。

今後、チャレンジしてもうまくいかないこともでてくると思いますが、それも経験のひとつです。臆せずチャレンジし、経験を積み重ねて、素敵な通訳者になってください。佑磨くんのコミュニケーション能力の高さは武器だと思います！



☆ 将来の夢 ☆ 『人の心に寄り添える潜水士になりたい!』

人の心に寄り添える
潜水士になりたい

森 陽汰



○羽田特殊救難基地

【日時】令和7年10月16日(木)午後1時00分から午後2時30分まで

【場所】羽田特殊救難基地(東京都大田区羽田空港 1-12-1)

【講師】羽田特殊救難基地

基地長 岡 大一郎 氏

第六特殊救難隊員の皆様

特殊救難基地職員の皆様

【研修内容】

- ・特殊救難隊に係る講演
- ・機器説明
- ・機材着用体験
- ・対談



【研修を通して学んだこと・感想】

自分の将来の夢は海上保安庁の潜水士になることです。その潜水士の精鋭、特殊救難隊が所属している、羽田特殊救難基地に訪問させていただきました。とても温かく笑顔で出迎えてくださり緊張が少しほぐれました。自分が憧れているオレンジ色の制服を身にまとい、人命を守っている特殊救難隊を前にとっても言葉にならない感銘を受けました。北海道の内陸に住む自分にとって、海上保安官はもちろん、潜水士の方や特殊救難隊の方々にお会いできる機会なんてないからです。

そして、羽田特殊救難基地の岡基地長より業務説明をしていただきました。

特殊救難隊の隊訓「苦しい 疲れた もうやめたでは人の命は救えない」中学1年生の時

にこのスローガンに知りました。それからは、頑張らなければならないとき、この言葉に支えられてきました。しかし、この言葉の後には行動指針として「すべては要救助者のために、今日も一日笑顔で帰ろう」という意味が込められていました。自分が命を落としてはならない、必ず生きて帰ることの重要性をこの言葉から感じました。

特殊救難隊は昭和49年に起きた火災海難事故がきっかけで、特殊海難に対応できる部隊を昭和50年10月に発足し、昭和61年に羽田特殊救難基地が設置されたそうです。そんな羽田特殊救難基地は、基地長・次長・専門官の方々、特殊救難隊に指揮をする統括隊長もいます。そして特殊救難隊は6チームで編成され隊長、副隊長、隊員4名の計6名で構成されていました。



特殊救難隊は特殊というだけに危険物積載船の火災・爆発への対応、転覆・沈没船からの人命救助、航空機との連携した救助、高度救急処置を要する傷病者の救助、国際緊急援助活動などがありました。

特殊救難隊は60mまで潜水ができ全国どこへでも航空機で駆けつけロープを使用した

「リペリング降下」を実施し救助します。また、基礎的な訓練の他実践的な訓練もします。岩場や、砂浜、沈没船等、海難現場に即した訓練です。



そして、次に実際に起きた海難救助の様子の動画を拝見させていただきました。荒波の中、暗い海の中を捜索し、要救助者を発見し救助した場面には胸が高鳴りました。数分の動画でしたが、「すべては要救助者のために、今日も一日笑顔で帰ろう」という行動指針が納得できる動画でした。

業務説明の後は、施設内を見学させていただきました。「海の事件事故は118番」というように118番に通報があり、司令センターから特殊救難隊に出動要請があれば、ホワイトボードに事故の状況などを書き出し、状況を把握してから5分ほどで出動するそうです。

また、救助等に使う器材を紹介していただきました。カラビナという金属環は吊り上げ救助の際に使う重要な金具です。カラビナにロープを通して救助しますが、何度も使用しやすいよう研究を重ね現在の形に至ったそうです。特殊救難隊の隊員には救急救命士の資格を持つ隊員もおり、ヘリコプター内で救助できるよう、AED、酸素マスク、血圧計、点滴等の医療用具等もありました。また、揺れるヘリコプター内や夜間暗いときでも血管確保ができるよう、ライトを照らすと血管が見えるような物品もありました。どんな状況下でも人の命を助けるために迅速に対応できる仕組みになっていました。



次にポンペを背負わせていただきました。ポンペは2種類ありました。ひとつは、水深40m以上潜水する際に使用する酸素、ヘリウム、窒素の3種類のガスが入っているポンペで重さは30kgで背中に背負います。もうひとつは水深20mから浮上する際に使用する20kgのポンペです。このポンペには酸素と窒素の2種類のガスが入っており、このガスを使用することで身体にかかる負担を軽減できるそうで、身体の右肩に付けます。ポンペだけで合計50kgを身体に装備するのです。ポンペを背負う際は重いため反ると後ろに倒れるため危険でした。身体の右肩にポンペを装着すると少しバランスが安定した感じがありましたが、隊員の方に支えられても立っているのにやっとで、いかに体力が必要なのかを実感しました。



他に火災海難事故のための防火衣もありました。防火衣も日々進化され、動きやすく熱にも強くなっているそうです。特殊救難隊の器材は色々検証し実際に使ってみて隊員全員が納得し使用しているとのことでした。

また、特殊救難隊にはマニュアルがないそうです。マニュアルを覚える時間があるなら、身体に叩きこめという教訓だそうです。海はその日その時の天候で状況が変化するため、どんな現場の状況でも即対応できるよう日々の訓練の重要性を実感しました。

そして質問にも答えていただきました。

●何m潜水すると水圧による体感がありますか？

→10m潜水すると、地上の2倍の圧力がかかります。空気のポンペ使用で30m潜水すると人によって窒素酔いで視界が狭くなりホワホワする感覚になります。そのため水深30m程から注意が必要で自分がどこまでできるのかなど判断する力が必要です。

●もしかしら要救助者は生きていないかもしれない、亡くなっているかもしれないという状況でどのような気持ちで救助に向かっていますか？

→絶対助けるという気持ちでいます。もしかしら亡くなっているかもしれないが助けることには変わりないのです。その方を家族のもとに届けることができ、家族の心が救えることに繋がるため、どんな要救助者でも救うという気持ちを常に持っています。

●特殊救難隊は最後の砦と言われていますが、自分の命を掛け救助することに対し恐怖はないですか？

→恐怖というか、プレッシャーはあります。自分たちは希望してここに来ているので、そ



こから目を背けずに向き合うことが大切です。

羽田特殊救難基地を訪問し、隊員たちの人命救助に対する強い使命感を感じました。すべては要救助者のために、体力づくりはもちろん、冷静に迅速に確実に対応できる力を磨いている、また、器材ひとつであっても抜かりのない準備や整備、操作を徹底的に行い、技術と人の力で人命救助を遂行する大切さを教えていただきました。



○横浜海上防災基地

【日時】令和7年10月16日（木）午後3時30分から午後5時35分まで

【場所】横浜海上防災基地（神奈川県横浜市中区新港1-2-1）

【講師】羽田特殊救難基地

次長 佐藤 英一 氏

第五特殊救難隊員の皆様

第三管区海上保安本部職員の皆様

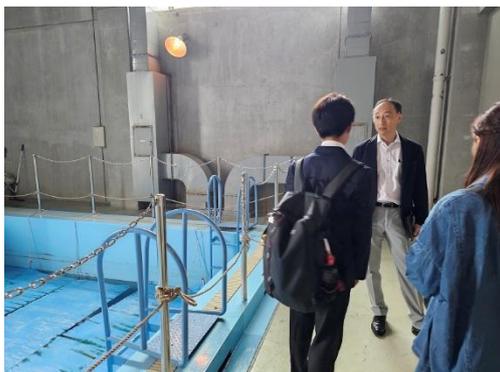
【研修内容】

- ・施設見学
- ・救助体験
- ・対談



【研修を通して学んだこと・感想】

横浜海上防災基地に訪問させていただきました。この基地には潜水土の訓練用の水槽や模擬船室などがあります。訓練用の水槽は3つありました。A水槽は、波やダウンウォッシュと呼ばれるヘリコプターの風を起こしたりし実際の海難現場を想定し訓練できるようになっていました。B水槽は深潜水用で深さが10mあり、水圧を意識した高度な訓練を実施するそうです。C水槽は水中作業用で沈没した船内を想定したり、船体を切断したりする訓練や、シートで表面を覆い夜間の水中を想定したりします。



早速、A水槽に入らせていただきました。憧れの特殊救難隊の黄色いウェットスーツに腕を通したときは胸が高鳴りました。しかし、なかなか着用できません。かなり身体と密着し生地も厚く作られていました。体温を逃さず冷えによる体力消耗を防ぐためです。また圧縮に強い素材を使い体の動きを妨げないように作られているそうです。そのため着用にも一苦労し、かなり時間がかかってしまいました。



やっと着用できた時には全身汗だけで、これを出動時は5分以内に着用し準備して出動するなんて普段の訓練は着用から始まっているのだと思いました。着用中も隊員の方が色々声をかけてくれ、とても緊張していた気持ちが軽くなりました。きっと要救助者も救助を待っている時、極限まで身体も心も追い詰められていると思います。そんな中隊員たちは安心するような声かけをされているのだと思いました。自分との状況とは全く違いますが、これが相手の気持ちに寄り添える救助のひとつなのだと感じました。

そしていよいよA水槽に入水です。隊員の方が見本を見せてくれました。「水面よし！」と水面の安全を指さし確認してから飛び込みます。水泳は得意なので水に対し恐怖心はありませんでした。しかし、実際に入水すると水泳の水着を着用している時とは全く違いました。ウェットスーツには浮力があるため自分の思うように身体が動かさません。また人工的に波やダウンウォッシュの風が起きると、気を抜くと体勢を維持できなく溺れそうな感覚を感じたため、一瞬たりとも気を抜くことができませんでした。



そんな中、要救助者をヘリコプターで救助する体験をさせていただきました。まず隊員のお手本を見学してから実践です。水の中で要救助者に浮き輪の役割になるレスキューチューブを胴体に装着しエバックハーネスという身体を包んでくれる救助用具を装着します。要救助者役の隊員は手を動かしてくれましたが、実際に体力消耗している要救助者は動けないと思います。荒波にも負けないようスムーズに装着する重要性を感じました。装着後はヘリコプターに吊り上げ救助するため、ヘリコプターから降下しているワイヤーのところまで要救助者を運び、カラビナで要救助者とワイヤーを接続します。しかし、接続は簡単ではありませんでした。波と風で水面が動いている中、なかなか手元が安定しません。また、上下がわからなくなりました。救助に一分一秒争うなか躊躇はしてられないのです。金具ひとつ装着するだけでも相当な訓練を実施しているのだと実感しました。そして、この波や風の音が

大きい状況のなか隊員たちの声はしっかり自分に届いていました。自分は返事するだけでもやっとで、その声も隊員の方に届いているのかもわかりません。普段からの声出しの重要性を身をもって実感しました。



次に、荒波の中、プールサイドの壁を登りました。なんとか両肘まで上がれましたが肘の力でそれ以上身体をあげることはできませんでした。何度か挑戦しましたが、自分の力では上がりませんでした。ですが、挑戦中、隊員の方が何度も応援してくれました。「できる！大丈夫！」と声かけしてくれ、この声かけが自分を奮い立たせてくれました。実際には上がりませんが、将来の目標ができました。

将来自分は必ず登れるように力をつけたいと思います。

その後は体験談などを聞くことができました。

- 特殊救難隊になるためには、100km行軍という100km完走しなければならないミッションがありますが、実際の感想を教えてください。

→70kmまでは順調で余裕だと思っていたが雨に打たれ、身体の震えが止まらなかったです。そんな中隊長や応援してくれている人が声かけしてくれ、辛いのは自分だけじゃないと思い気持ちを奮い立出せゴールできました。

- 毎日辛い訓練をされていると思いますが、日々の訓練で逃げたいと思ったことはありますか？

→実際にある場合もある。しかし、要救助者を助けるためにここにいるといった気持ちが勝ります。実際訓練で溺れそうになったこともあるが、周囲の声掛けに助けられることもある。その力は凄いと感じているので頑張ろうと思えます。



横浜海上防災基地では実際に水に入ること、地上ではわからない水の中の身体バランスを保つ難しさ、救助器具の使い方など違った視点で身を持って体感することができました。人の命を救うという責任の重さ、そしてただ単に命だけではなく、声掛けにより相手の心も救うことができるということを学ぶことができました。また歴代の潜士の方々には殉職された方はいないそうです。要救助者を救う、そして自分も生きて帰るこのためにとてつもなく厳しい訓練を乗り越えて、日々試行錯誤していることを実感しました。

○海上保安大学校

【日時】令和7年10月17日（金）午後1時20分から午後4時20分まで

【場所】海上保安大学校（広島県呉市若葉町5-1）

【講師】海上保安大学校

総務課長 高橋 健彦 氏

総務課専門官 関吉 佑亮 氏

人事厚生課人事係 木原 瑞紀 氏

潜水技術過程 教官・研修生の皆様

【研修内容】

- ・施設見学
- ・装備着用体験
- ・対談
- ・講義：潜士になるためには
海上保安大学校と海上保安学校の違い



【研修を通して学んだこと・感想】

広島県呉市にある海上保安大学校を訪問しました。海上保安大学校は4年制の大学校です。また、潜士の養成も実施されています。まずは、潜士育成のための潜水訓練用プールを訪問しました。温かく潜士の教官や潜水研修生が出迎えてくれました。

潜士になるためには、潜士として必要なスキルや知識を習得します。訓練内容は高度で厳しく、体力と精神力、そして強い意志が求められるそうです。まず、各管区で潜士希望者の選考試験があります。それに合格した者がこの学校の潜水技術過程で潜士の訓練を行うことができます。

その潜水技術過程には3つの工程がありました。まずはプール実習です。そこで息止めや、立ち泳ぎなどの訓練をします。プール実習をクリアすると慣海実習です。海岸に出て水が濁っていたり、暗い水の中で訓練をします。その後は、海洋実習です。巡視船に乗り実際の海難事故を想定した訓練を実施します。その訓練をすべて乗り越えて晴れて潜士になれるそうです。

その研修生が着用するウェットスーツを実際に着用させていただきました。今回2度目のウェットスーツでしたが、またまた時間がかかってしまいました。身体にスーツが密着し、なかなか足元から身体へと上がりません。教官の手を借りながらやっと着用できました。ここでも汗だくになり、着用慣れるまでかなりの練習が必要だと思いました。着用後は、実際の30kgの酸素ポンペを背負い階段を上りプールまで歩きました。たった数分でしたがこれだけでもかなり体力が消耗しました。潜士の方たちの体力の強さを身を持って感じた瞬間でした。





装備着用体験後は、潜水士の教官、研修生の方々と対談をさせていただきました。

研修生にお話を聞きました。

●潜水士を目指したきっかけは？

→ドラマの影響もある、人の命を助けたいと思いました。

→海外の海上保安庁のレスキューを見て志すようになりました。

●潜水士の訓練はどのようなですか？

→きつい、でも楽しい、研修受けてみて、体力だけではなく頭も使うこともある。準備の手順やミスしたときはどうしたらよいか考えています。



教官にお話を聞きました。

●どんなことを重点的に指導していますか？

→潜水研修は基本的に自分が死なないためのことを教えています。荒れた海や台風等の過酷な環境で人を助けに行かなければならない。そのためまずは自分が死なないための訓練が必要です。自分の身を守れて初めて人を救える。そのため自分で独り立ちが出来るよう育てています。

●教官の立場から見て、潜水士に向いている人の特徴は？

→失敗を受け入れてどう直すか考えられる人です。水泳が早いからとか呼吸を長く止められるとかではなく、気持ちが折れない人が向いているかもしれない。また「かゆいところに手が届く人。」一緒に潜って、自分の気持ちを理解して自分の置かれた状況を一瞬で理解してくれる人だと思います。



プール見学後は海上保安大学校の校内を見学させていただきました。海上保安大学校は寮生活です。部屋は整理整頓され、布団もきちんとたたまれています。校内もとてもきれいで、浴室までピカピカです。すれ違う学生は立ち止まり大きな声で挨拶をしてくれました。些細なことかと思いがちですが、決して簡単なことではありません。ひとつひとつの行動や動作

が海上保安官としての誇りであり、日本の海の安全と治安を守る使命感に繋がっているのではないかと思います。

海上保安大学校を訪問し、潜水技術過程で研修する潜水土候補生は並大抵ではない努力が必要であると感じました。基礎体力の錬成、潜水技術の習得、精神力、冷静な判断力、専門知識などが必要で、自分の判断と行動が命を左右するという重い責任感を背負う重要性を学びました。また、寮生活の様子から、海上保安大学校に入庁するという事は単なる学生ではなく、将来幹部海上保安官としての明確な目標と高い使命感を持って行動しているのだと感じました。



☆ 研修を通して学んだこと（まとめ） ☆

救助における安全意識と基本的動作の正確さの重要性を学びました。水中では一つのミスが大きな事故につながるため、器材の点検や準備の大切さを実感しました。また、潜水訓練体験では思うように身体が動かない中での水中作業の厳しさ器材の扱い、安全管理の徹底などの学びがありました。ほかにも、言葉の重みを強く感じました。言葉には命を守る力があると学びました。ひとつの報告、確認、相手への声掛け、これが人命救助に繋がる。そして人命救助は要救助者だけでなく、そのまわりの家族の心が救われることもある。とても深い学びを得ることが出来ました。これからは、何気ない言葉にも責任を持ち仲間を思いやる声掛けを大切にしていきたいと思います。

Q 夢応援プロジェクトに参加して、夢への熱意はどうなりましたか？



潜水土や特殊救難隊の活動をより深く知り、人の命を守るために活躍する姿を前に、より強く憧れました。責任の重さや訓練の厳しさを知り、自分もその一員として人を助けたいという思いがますます強くなりました。夢に向かって一歩ずつ成長して行きたいと思います。

Q 夢をかなえるために、努力していきたいことはありますか？

将来海上保安大学校・海上保安学校に入庁することを見据えて、今から数学理科英語はしっかり学びたいと思いました。また潜水土になるために、毎日の体力づくりを大切に、持久力や泳力を向上していきたいです。つらい時でもあきらめず、最後までやり抜く精神力も身につけていきたいと思います。これからも夢に向かって一つ一つ努力を積み重ねていきます。

Q 10年後の自分はどうなっていますか？自分に向けてメッセージ！

10年後には夢を叶え潜水士として海難救助の最前線に立っていると思います。自分の限界の先を見えていますか？

この研修が自分の励みになっていることの感謝の気持ちを直接海上保安官の方々へ伝えることはできましたか？

Q 研修に協力してくれた皆さんへ今後の決意表明！

とても貴重な経験をさせていただき本当に感謝しています。潜水体験や説明を通して、改めて潜水の奥深さと安全管理の重要性を感じました。今回の経験を糧に、将来海上保安官、そして潜水士、特殊救難隊になれるよう日々努力していきたいと思っています。

Q 次年度、夢プロを応募するみんなへひとこと！

将来の夢は頑張れば叶うかもしれません。しかし、この夢応援プロジェクトは夢の実現に向けて、目標を具体化することができ自己肯定感が高まります。みなさんチャレンジして一緒に夢を叶えましょう！



【保護者からのひとこと】

人を助けたいという夢を持ったことに親として誇りに思っています。研修で出会った方々のように人の命を守る立派な潜水士になれるよう、全力で応援しています。この研修での感謝の気持ちを胸にこれからも一緒に頑張ろうね！



【研修担当職員からのひとこと】

小学生のときから、夢をぶれずに持ち続けていること、また、その夢に向けて頑張りがつづけていることは、本当に素晴らしく尊いことだと思います。今後、陽汰くんには色々な壁が出てくると思いますが、この研修で得た出会いや経験が、壁を乗り越えるきっかけになっていたら嬉しいです。潜水士になったと報告があること楽しみにしております。

Don't limits yourself, Keep Going!



令和7年度 あさひかわっ子☆夢応援プロジェクト



【個人の部】

☆ 将来の夢 ☆

保護犬保護猫の世話人

☆ 将来の夢を叶えるために、今チャレンジしてみたいこと ☆

犬猫・重カ物食司いかたやケがや病気を周る。保護施設に見学して、働いてる人の話を聞く。保護犬家族として引き取りたい。

☆ チャレンジの実現に必要なと思うもの ☆

重カ物に愛情を持って接する。命と個性を大切にする。

旭川市立永山中学校 1年

令和7年度 あさひかわっ子☆夢応援プロジェクト

【個人の部】

★ 将来の夢 ★

音楽の街・旭川から！ 市内の中学生ではろ人しかいない(2025.現時点)...
地味で目立たない楽器を"けど、将来はコントラバス奏者になりたい!!!

★ 将来の夢を叶えるために、今チャレンジしてみたいこと ★

- ①入部しても同じパートに先輩がいなかった為、独学に近い弾き方なので講師の先生にしっかり基礎から教わりたい。
- ②ソロで演奏することがない(ソロコンクールの規定でコントラバスはソロでコンクールには出場できないし、吹奏楽曲も少ないので、ソロでも演奏してみたい。
- ③音楽をし、かつ勉強したいので、音楽が専門の学校(大学とか)で体面な授業を受けてみたい。
- ④オーケストラで演奏してみたい。コントラバスの役割(吹奏楽との違い)などを勉強してみたい。
- ⑤低音パートに必要なリズム感を養うために指揮の勉強をしたい。
- ⑥とは言っても吹奏楽部員の一人。今年は永南・永中に負けず全国大会に行きたい! その為にも部員を引張っていけるリーダーシップを身につけたい。

★ チャレンジの実現に必要なと思うもの ★

- ・講師の方々への謝礼金、移動費と楽器の運搬費
- ・協力して下さる方との連携、気合いと根性

旭川市立緑が丘中学校 2年

令和7年度 あさひかわっ子☆夢応援プロジェクト

【個人の部】

★ 将来の夢 ★

海上保安官になり人の心に寄り添える
潜水士になりたい

★ 将来の夢を叶えるために、今チャレンジしてみたいこと ★

自分は一昨年にこのプロジェクトに応募し、奨励賞も頂き、第一管区海上保安本部にて巡視艇乗組員としての訓練や潜水士の訓練を見学等の研修をさせて頂きました。その研修の中で潜水士の方から教えて頂いた「1人では救助ができません」という言葉はとても重く今も心に残っています。この言葉から人命救助には仲間との信頼関係の構築が重要で、要救助者や家族の気持ちも尊重することによって身体だけではなく心の救助もあることを学びました。今回は一昨年の研修の学びを活かし、何事にも諦めが強い意志を持ち夢の実現に向けて将来の目標をより明確にしたうえで、再チャレンジすることを決意しました。そのため、潜水士になるために必ず通らなければならない海上保安大学校の研修科潜水技術課程で潜水士訓練士になるための潜水研修の見学、可能範囲での訓練体験、第一管区海上保安本部において活躍している特殊救助隊の基地を見学をし、現役の潜水士の方の高度な専門知識と技術、責任感や使命感を直接感じることで、将来の夢の達成に必要な要素を整理し、自己肯定感を高め今の自分と向き合いながら目標を具体化したいです。

★ チャレンジの実現に必要なだと思うもの ★

交通・宿泊費 旭川から羽田までの航空機代 往復3600円程度 羽田から本島までの " " 往復3000円程度 各空港から現地までの交通費 約10000円程度 ホテルでの宿泊費 約4000円程度 計120000円 程度の旅費	海上保安大学校や 羽田特殊救助隊基地 での研修許可
--	---------------------------------



令和7年度 あさひかわっ子☆夢応援プロジェクト

【個人の部】

☆ 将来の夢 ☆

自分は野球が好きなので野球に関わる仕事につくこと!
(球団職員、その球場で日々の仕事としてやっていること)をしたい。

☆ 将来の夢を叶えるために、今チャレンジしてみたいこと ☆

- ・ エスコンフィールドで球団の仕事はなにがあるのか知りたい (実際に働いている)
- ↳ ① 自分はまだ球団職員だとしても何をやるのか分からないから、人にききたいそれをより詳しく知りたいと思ったからです。
- ・ 実際にその仕事を体験してみたい。
- ↳ ② 体験することでこれから自分にどんな学びが必要でどんなことを身につけなければいけないのか分かるからです。
- ・ 日々エスコンフィールドで働いている人のお話をききたいです。
- ↳ ③ 働いている人が今まで何をしてきたのか知ることで自分の今後を活かしているからです。そしてその仕事のやりがいについても知る事ができるからです。
- ・ 働いている人たちを近くで見てみたい。(実際の試合で)
- ↳ ④ 表で働いている人は球場に行くことで分かることが多いため裏の人の仕事や表の仕事でもしらないことがたくさんあるからです。

☆ チャレンジの実現に必要なと思うもの ☆

- ・ エスコンフィールドまでの移動料 = 1~2万 (車で往復)
- 宿泊費 = 2万くらい
- ・ エスコンフィールドで働いている人が教えてくれたり、お話をしてくれること。

旭川市立東明中学校 3年

令和7年度 あさひかわっ子☆夢応援プロジェクト



【個人の部】

☆ 将来の夢 ☆

世界で認められるスケートボード選手

☆ 将来の夢を叶えるために、今チャレンジしてみたいこと ☆

AJSAの本大会に出場すること。
そのため、9月の北海道アマチュア・サーキット単独で
月勝つこと。勝つために、東京のプロスケーターのスクール
を受けたい。
アメリカ留学をしたい。
そのため、英言葉を少しでも話せるようにしたい。
プライベートパークをたて、本州にも負けぬ練習をしたい。

☆ チャレンジの実現に必要なと思うもの ☆

プライベートパーク
使わなくなった糸内屋や、倉庫など。(セクションは自分家
にあります) プロレッスンのための交通費、交通費5万円
スクール代10万円(ザパーク) 宿泊費6万円 食費1万5000円
アメリカ留学 週間60万円

旭川市立永山中学校 1年



令和7年度 あさひかわっ子☆夢応援プロジェクト

【個人の部】

☆ 将来の夢 ☆

言語聴覚士

☆ 将来の夢を叶えるために、今チャレンジしてみたいこと ☆

色々な人と関わったり、実際に言語聴覚士として働いている人に、話を聞きたいです。

そして実際に口をきかえて、どのように改善してどのような結果になったのか、などくわしく聞いてみたいです。

☆ チャレンジの実現に必要なと思うもの ☆

私は、大人になって立派な言語聴覚士になり、うまく話せなかったり、うまくごはんを食わられなくて苦しんでいる大人や子どもを助けたいと思います。なので上にも書いたように、実際に言語聴覚士として働いている人に話を聞いたり、たくさん大学に行き、オープンキャンパスに参加するための交通費や、宿泊費が必要です。

旭川市立東光中学校 1年



令和7年度 あさひかわっ子☆夢応援プロジェクト

【個人の部】

☆ 将来の夢 ☆

ピアニスト

☆ 将来の夢を叶えるために、今チャレンジしてみたいこと ☆

僕が夢を叶えるためにチャレンジしたいことは、たくせんのコンクールに挑戦して、経馬賞を稼ぎ、もっと表現力を探めることです。特に「ショパンコンクールinアジア」のコンチェルト部門に出場し、全国大会、そしてアジア大会に進むことが今の一番の目標です。この部門では、先生と一緒に二台ピアノで共演します。僕が今の自分と向き合ってピアノに向かい続けられるのは、先生の支えがあるからです。先生との共演は、僕にとって特別なチャレンジであり、大きなあこがれでもあります。

☆ チャレンジの実現に必要なと思うもの ☆

旭川から東京の飛行機代
・ホテル代
・エントリー料
・レッスン費

旭川市立神楽中学校 1年



令和7年度 あさひかわっ子☆夢応援プロジェクト

【個人の部】

☆ 将来の夢 ☆

スポーツ通訳士になる 

☆ 将来の夢を叶えるために、今チャレンジしてみたいこと ☆

- 小学3年生から5年生の2年間、海外に住んで、その時に言葉が通じないことの大変さを糸巻馬食しました。自分が好きなバスケの世界で困っている選手をサポートしたいと思っています。
- 全日本の男子バスケの通訳士にどうやってなれたかどんな仕事をしているのかを知りたい
 - レバンガ北海道の富永選手に海外でプレーする大変さを知りたい。

☆ チャレンジの実現に必要なと思うもの ☆

- 東京への飛行機代往復 5万円
- 宿泊代 3万円
- 札幌へのJR代往復 6000円
- 宿泊代 2万円
- その他謝礼金



旭川市立愛宕中学校 1年



令和7年度 あさひかわっ子☆夢応援プロジェクト

チャレンジの軌跡 <記録集>

編集・発行 令和8年3月

旭川市子育て支援部子育て支援課

〒070-8525 旭川市7条通9丁目

TEL (0166) 25-9847 FAX (0166) 26-5722